

## 「AI×医療」の人材を育成—文部科学省高等教育局医学教育課長の丸山浩氏講演レポート



東京大学未来ビジョン研究センター(旧・東京大学政策ビジョン研究センター)、慶應義塾大学メディカルAIセンター、エムスリー株式会社m3.com編集部が2019年1月から開催している「医療×AIセミナーシリーズ」のイベントレポートです。

文部科学省高等教育局医学教育課長の丸山浩氏は、「次世代医療人材養成の取組について」と題して講演した。医学教育課は医療系・福祉系人材養成を幅広く所管している。2018年に生まれた子供たちが大学を卒業する2040年の社会では、SDGs、AIやビッグデータを活用するSociety5.0、人生100年時代、グローバル化、生産年齢人口の減少などの社会課題に直面することになる。そのための人材育成、高等教育改革が重要だ。文部科学省では大学の基盤強化や連携・統合、リカレント教育の推進などを進めようとしている。多様性と柔軟性、学修成果の可視化などがキーワードだ。

### 文部科学省による次世代医療人材の育成

保健医療分野におけるAI研究開発・促進人材の養成は、政府の「保健医療分野AI開発加速コンソーシアム」の議論や「AI戦略2019」等に掲げられており、データ基盤の整備と合わせて官民挙げて推進するとされている。そのためには「AI×医療」の教育機会を増やしていくことが重要とされている。

米国では2016年にAI研究開発・活用を目的とした「米人工知能研究開発戦略計画」を策定し、保健医療分野も教育・生活の質向上分野に位置付けられるなど、積極的に対応を進めている。また中国では中国国務院が2017年に「次世代AI発展計画」を公表。2030年までに10兆人民元(約170兆円)のAI産業形成を狙うなど、AIを経済の新たな牽引役とする国家目標を打ち出している。保健医療分野は「安全で便利なスマート社会の構築」に位置付けられている。なおAI開発に向けた中国政府予算は年間4500億円程度で、日本の予算(約770億円)と比べると約6倍とされている。丸山氏は米国の保健医療分野のAI技術開発・教育の取り組み例を交えて紹介した。

日本では先進的医療イノベーション人材養成事業の一環として「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」が令和2年度から行われる予定だ。医療系学部を持つ大学を中心に保健医療分野におけるAI研究開発を民間企業・団体等の協力を得て、現場の知見やニーズを用いてAI技術開発を推進できる人材を養成する。医療データを使った機械学習などを学ぶ拠点を構築する。事業期間は最大5年間、選定予定件数・予算単価は2拠点で各1億円。医学教育を受けた人材が現場の知見やデータを用いてAI活用を進めることで、プログラム修了後の出口を見据えた教育や評価を行う。AI技術を推進する能力を持った医師や技師等を養成する。学位の授与のほか、学修成果の証明書等の発行も可能とする予定だという。

また「医療データ人材育成拠点形成事業」も進めている。ビッグデータを整理し、整理されたデータを分析し課題を解決できるトップレベルの人材を育成する。事業期間は令和元年度から3年間。医療リアルワールドデータ活用人材育成事業(東京大学ほか2大学で実施)と、関西広域医療データ人材教育拠点形成事業(京都大学ほか10大学で実施)を進めている。



森山和道  
サイエンスライター

サイエンスライター、科学書の書評屋。1970年生。広島大学理学部地質学科卒。NHKディレクターを経て現職。現在、科学技術分野全般を対象に取材執筆を行う。特に脳科学、ロボティクス、インターフェースデザイン分野。研究者インタビューを得意とする。